

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭) /
黒川 衣代

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容: 担当している授業は専門科目であるが、将来、教師を目指す学生に対する授業であるので、家政学系学部における専門科目の内容とは異なる。学習指導要領・教科書を基に、学生が将来働くであろう小学校・中学校で教える家庭科の内容を起点に担当授業の専門的な内容を吟味する。
②授業方法: 小学校・中学校家庭科の授業を意識させるため、家庭科の授業の特徴でもある体験的学習法、ワークショップ形式の授業方式を取り入れる。また、抽象概念の説明には言葉だけでなく、スライドや小道具等を用いて視覚的に見せる工夫をする。これにより学生は具体的に説明することを体験的に学ぶと考える。
③成績評価: 出席状況、レポート等の提出物・プレゼンテーション、テストの総合評価とする。授業の1回目ではその比率を数値で示し、公平で客観的な評価について、学生との合意形成を行う。プレゼンテーションに関しては、将来、教員として成績評価者となるであろうことから、観点を考えさせたいので、お互いに評価し合うこととする。

2. 点検・評価

①授業内容: 学生が小学校・中学校の教員になることを考慮に入れ、担当授業の内容を関連づけるようにした。前期「家族論」では、現代の子育ての問題から児童虐待も取り上げ、虐待防止法における教員の役割と関連させた。コア科目においては、なるべく多くの授業実践例を目に通すことができるよう、自分が調べた授業案ベスト3とその理由を発表させた。保育学の授業では、子どもと関わる大人に教員を位置づけ、その関わりと影響を取り上げた。
②授業方法: 前期「家族論」では、家族の可視化を目指し、家族員相互の関係、家族と社会の相互関係を説明する小道具を作成した。また、国勢調査データを使って特定のタイプの世帯を計算するなどして現代家族の様相を実感する授業、作業を通してジェンダーに気づく授業など体験的学習法、ワークショップ形式の授業を実践した。保育学では、保育園訪問による実習を行い、直に子どもとふれ合い乳幼児期の成長について学習した。
③成績評価: 担当各授業のオリエンテーションでは成績評価方法について、出席状況、レポート等の提出物・プレゼンテーション、テストの総合評価であることを説明し、それらの比率を数値で示して合意を得ている。「評価をする」学習を授業に取り入れ、「家族論」のプレゼンテーションでは、学生間相互評価を実施し、最終評価5%に反映させた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①授業の欠席が重なってくる学生に、細やかな教育支援を行う。
- ②学生が就職活動に生かせるよう、礼儀マナーや言葉遣いについて随時、指導していく。
- ③進路や悩みの相談ごとがある学生には随時応じる。

2. 点検・評価

- ①前期において、幸い授業で欠席が重なって対応が必要な学生は、いなかった。後期において、欠席がちな学生が1名いた。メール連絡、クラス担任への働きかけ等により授業出席への支援を行った。
- ②授業を通して、礼儀マナーや言葉遣いについて随時、指導した。学部ゼミ生は希望していた幼稚園に採用が決まった。
- ③ゼミ生の悩みに耳を傾けて聴き、助言した。結果、卒業研究に前向きに取り組むようになった。他のゼミ所属の学生、担任をしている1年生の学生が進路に関して相談に来たので助言した。
- ④1年生のクラス担任として夏休み前に面談を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- ①学会誌に論文を少なくとも1本は投稿できるように研究を進める。
- ②少なくとも1回は学会で発表をする。
- ③研究助成の公募に申請し、学外資金を得るよう努力する。

2. 点検・評価

- ①米国の学会(NCFR:全米家族関係学会)において、“Factors Affecting Japanese Fathers’ Intention of Doing Household Work”という演題で発表した。その内容の論文を現在、執筆中である。
- ②家政学会「子ども・子育て関連3法時代における合計特殊出生率回復への戦略ー中国・四国地域1999年調査との関連から」、家庭科教育学会「これからの自分と家族に関する授業開発と実践ーワーク・ライフ・バランスとキャリア教育の視点取り入れてー」、家政学会アジア大会“Parent-child Relationships and Dinnertime Conversation among Japanese Children,” “Developing Family Life Education Program in Japan: Practices and the Evaluations”、日本家庭科教育学会四国地区研究発表会「中学校技術・家庭科(家庭分野)における体験的学習活動を中心とした教材開発ー幼児のおやつを通じて家族を考えようー」をそれぞれ発表した。
- ③民間の研究助成は、主査を務めた採用人事の書類作りと時期が重なったため、申請書類作成に遅れが生じ応募を見送った。
- ④2年がかりで取り組んだ『Family Life Education』の翻訳書『家族生活教育』(全392ページ 南方新社、11月刊行)を監訳者として出版した。
- ⑤厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「男性の家事参加の促進プロセス:mixedアプローチによる分析」(課題番号 H24-政策-一般-007)に係る平成24年度研究報告書を分担執筆した。さらに継続研究として、今年度はインタビュー調査、インターネット調査を行った。
- ⑥学会関係では、日本食育学会編集委員を務めている他、食育学会、家政学会、アジア地区家政学会(ARAHE)の査読委員を務めた。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①学内の担当委員会、教授会等に出席し、職務を遂行する。
- ②上記の他に委員等の依頼があれば、引き受ける。

2. 点検・評価

- ①コース会議、部会議、教授会への出席の他、大学院教務委員会委員として、職務を遂行した。
- ②上記の他に、今年度は大学機関別認証評価WG委員、学部推薦入学Ⅱ型入学者選抜試験(小論文)問題作成者(責任者)、1年生担任学年連絡会代表(世話役)、家庭経営学担当教員選考委員会主査、食物学担当教員選考委員会委員、院教務学位論文審査基準(修士課程)策定専門部会委員を引き受け、職務を遂行した。
- ③教科内容学に基づく小学校教科専門科目テキスト「家庭」を分担執筆した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属校との授業実践研究や附属校で行われる研究大会に、積極的に関わり参加する。
- ②教育支援アドバイザー講師や行政の委員会委員の要請があれば積極的に引き受ける。また、地域社会との交流・連携の機会があれば積極的に行う。
- ③留学生、外国人研究者の希望者を積極的に受け入れる。

2. 点検・評価

- ①附属中学校で開催された第57回中学校教育研究発表会に参加した。
- ②2013年度の教員免許更新講習の講師として登録したが、受講希望者が少なく講座が成立しなかった。教育支援アドバイザー講師や行政の委員会委員の要請はなかった。後期の授業「保育学」で、いずみ保育園を訪問して保育実習を行い、園児らと交流を行った。
- ③留学生のための授業「日本の教育と文化」の一部を担当している。ガーナから本学に来ている教員研修留学生を前期の院授業「家族・ジェンダー研究」の聴講生として受け入れた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)